デンケン 磁気事業拡大

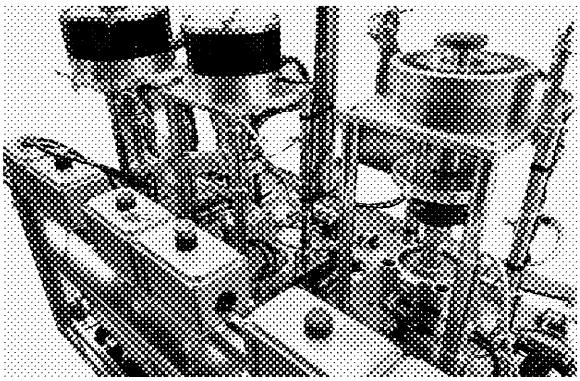
計測など EVモーターで商機狙う

【大分】デンケン（大分県由布市、石井源太社長）は、新規参入した磁気事業の拡大を加速する。電気自動車（EV）などモーターが使われる分野での商機拡大を狙い、2023年内にも着磁した磁場の測定評価サービス体制まで確立する。これにより、磁気を「着ける（消す）」「はかる」「みる」の3技術を自社で一気通貫する開発・供給体制を整える。5年後に磁気事業の売上高を現状比2倍の5億円に引き上げる考えだ。

5年後めど売上高2倍

現在は電動化が進み、消費電力の50%はモーターが消費するといわれる。モーターの高効率化では着磁・計測技術、レアメタル（希少金属）の再利用では脱磁・計測技術、パワーマネジメントではパワーデバイスの評価と開発が技術融合される必要がある。

そこでデンケンは22年8月に磁気測定器製造・販売業のエーデーエス（東京都世田谷区）を、23年3月に着磁・脱磁電源メーカーの東洋磁気工業（埼玉県新座市）を買収。さらに大分県産業科学技術センター内に「イノベーションラボ」を置き、要素技術開発で同センターの協力を得ている。



▲ローターマグネット着磁&計測システム（デンケン提供）

車載分野で国際規格「ISO17025」の認定試験所という強みを持ち、電子化が進む自動車のデバイス技術開発も自前で行っている。「製品の単品売りビジネスではなく、トータルサポート体制をとる」（小野健太郎取締役）ことで、国内市場規模が200億円ともいわれる磁気産業分野での存在感を増していく考えだ。

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社